



株式会社デンソーと連携に関する協定を締結しました

東海農政局は、1月16日、株式会社デンソーと連携に関する協定を締結しました。この協定は、東海農政局と株式会社デンソーが緊密な協力関係の下、スマート農業技術を活用した地域農業の持続的な発展および農林水産物・食品分野における効率的な物流の実現に貢献することを目的とするものです。

連携の内容

- 1 栽培技術の継承、人手不足の解消、環境負荷低減等に効果のあるスマート農業技術の普及活動を行います。
- 2 農林水産物・食品分野において効率的な物流を実現するため、物流DXを活用して産地から流通関係者までの情報を連携した流通モデルを構築します。
- 3 1、2の先進技術について中長期的な展開方向について検討するなど、相互に協力を行います。



株式会社デンソー 横尾経営役員（左）、森東海農政局長（右）

お問合せ先 経営・事業支援部食品企業課 TEL 052-746-6430

「第1回 みどり戦略学生チャレンジ」に参加しませんか？

農林水産省は、持続可能な食料システムの構築に向け「みどりの食料システム戦略」を策定し、環境負荷低減に資する取り組みを推進しています。未来を担う学生にみどりの食料システム戦略に基づく環境に配慮した取り組みにチャレンジしていただく「第1回 みどり戦略学生チャレンジ」を実施します。ぜひご参加ください。

みどり戦略学生チャレンジ 応募の概要

●募集期間

参加宣言：令和6年1月～5月
取組実施：令和6年1月～10月
取組報告：令和6年10月

ポスター（A版縦長1枚）

※全国大会出場者はポスター発表動画（4分以内）を追加提出

＊優秀作品は表彰予定

●対象

- ①高校の部
 - ②大学・専門学校の部
- ＊授業の一環、部活動、ゼミ・サークル活動等、参加形式は問わない。学校の垣根を超えたグループも可。
＊農業高校、農業大学校等、農業に関係する教育機関に限らない。

●内容

- ・みどりの食料システム戦略に基づいた取り組みを実践。
- ・概要をまとめたポスター等を「学生チャレンジ」として各種イベント、YouTube配信等により紹介。
- ・意見交換会等による参加チーム間の交流を予定。

東海農政局 みどり戦略学生チャレンジ 東海ブロック大会開催

詳しくはこちらから



東海農政局は、みどり戦略学生チャレンジ東海ブロック大会を開催し、優れた取組成果を表彰します！
さらに、取組成果の中で特に優れたものは、全国大会へ進出することができます。

お問合せ先 企画調整室 TEL 052-223-4610



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第10回選定）受賞者の紹介

農林水産省および内閣官房は、農山漁村活性化の優良事例である「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第10回選定）として、29地区を選定しました。東海農政局管内（岐阜、愛知、三重）からは、2地区が選定されました。

また、東海農政局は、「東海農政局ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として5地区を選定しました。

《全国選定の2地区》

《ビジネス・イノベーション部門》

株式会社デイリーファーム

愛知県 常滑市

遺伝子組み換えのない飼料原料や地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。6次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で卵と地元食材を活用した商品を販売。



6次化施設「ココテラス」(上)と農家レストラン「レシビヨ」(下)

優秀賞

《コミュニティ・地産地消部門》

株式会社七転八倒

三重県 伊賀市

田舎の課題を事業化・価値化し有効活用する目的で活動を開始。子育て世代や高齢者も働き続けられる職場を目指し、空き家を活用した古民家カフェを中心に活動。



雇用とコミュニティの核となる古民家カフェ

特別賞
新価値創出賞

《東海農政局選定の5地区》

《ビジネス・イノベーション部門》

白川町グリーンツーリズム協議会

岐阜県 白川町

有機農業を主体テーマとして、農業体験、有機農業野菜での食事提供、農家民泊を一体的に提供。白川町の地域資源を活用して都市と農村の交流を促進し、交流人口を増加させる取り組みを実施。



白川町の美しい自然を満喫するアクティビティ

《ビジネス・イノベーション部門》

株式会社つじ農園

三重県 津市

中小規模農家のドローン導入における課題（コスト、作業の専門性等）解決のため、地域の農業者がドローンやオペレーターなどを共有する「ドローンシェアリング」の体制を構築・運用。



ドローンを活用した散布作業と地域生産者への作業説明

《ビジネス・イノベーション部門》

株式会社浅井農園

三重県 玉城町

農地中間管理機構を活用して7.3haの遊休農地を集積し、キウイフルーツ果樹園を開園。キウイ販売世界最大手のゼスプリ社と提携し、大規模・高品質・高単収のビジネスモデルを構築。



玉城町とのキウイフルーツ産地化連携協定

《コミュニティ・地産地消部門》

愛知県立南陽高等学校

愛知県 名古屋市

（授業「農業と生活」&部活動「Nanyo Company部」）

環境負荷が小さい持続可能な米作りを実施。また、地元農家や企業と連携し、廃棄される流通規格外野菜で商品開発を行い、企画、生産から流通、販売まで一連の活動を実施。



硫黄コーティング肥料を使用した米作り

《コミュニティ・地産地消部門》

社会福祉法人朋友

三重県 鈴鹿市

障がいのある方が農作業の他、カフェでの接客や惣菜の製造など、活動の幅を広げ、好きな作業・得意な作業を選択することができる農福連携を通じた職場づくりを実施。



水耕栽培の農場「わか菜の社」で活躍する障がい者の方

ディスカバー農山漁村（むら）の宝
ロゴマーク



農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

詳細は東海農政局のWebサイトをご覧ください
<https://www.maff.go.jp/tokai/noson/toshinou/discover/index.html>



「スマート農業推進フォーラム2023in東海」を開催しました

東海農政局と農研機構中日本農研センターは、スマート農業技術の普及拡大を図るため、令和5年12月5日に名古屋国際センターにおいて、「スマート農業推進フォーラム2023in東海～スマート農業ではばたくみどりの食料システム戦略～」を開催しました。

当日はフォーラムと展示会場を合わせて農業者、農業者団体、民間企業、研究機関、自治体など約180名に参加いただきました。

【フォーラム会場】

- ・基調講演として、「スマート農業技術の社会実装に向けて」と題し、農研機構副理事長 中谷誠氏に講演いただきました。
- ・その他、スマート農業実証プロジェクト成果報告（4地区）、株式会社デンソーのスマート農業技術開発への取り組み、「みどりの食料システム戦略」技術カタログ掲載技術（自動操舵装置）の現場実装事例について、発表いただきました。



フォーラム会場の様子

【展示会場】

スマート農業実証プロジェクトに参画された企業等による、スマート農業技術の展示を行いました（15組織）。

フォーラム後に行ったアンケートでは、回答のあった方の約8割の方から「参考になった」と回答がありました。また、「内容が充実していてよかった」「スマート農業について網羅的に情報を得られてよかった」などの評価をいただき、スマート農業技術の普及拡大につながるイベントになりました。



展示会場の様子

フォーラムの資料、基調講演の概要については、こちらをご参照ください
<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/kankyo/tech/231205shiryuu.html>



お問合せ先 生産部 生産技術環境課 TEL 052-746-1313

野菜の消費拡大に関するセミナー「伝統野菜で旬の食を楽しむ」を開催しました

令和5年12月6日、伝統野菜への理解を深めていただき、野菜の消費拡大につなげるためのセミナーを開催しました。

あいち在来種保存会代表世話人の高木幹夫氏から「伝統野菜から学ぶ地産地消」と題した基調講演、その後、東海3県（岐阜・愛知・三重）の伝統野菜に携わる生産者・料理人・栄養士・食品事業者の方々によるパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、東海地域の伝統野菜の新たな魅力や調理方法など、旬の食の楽しみ方について活発な発言がありました。

参加者からは、「栽培する土地で野菜の味や姿が変わることに驚いた」「地産地消について改めて深く考える機会となった」などの声が聞かれました。

皆さんも、東海地域の旬の伝統野菜を食べてみませんか。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

基調講演・パネリスト

あいち在来種保存会
代表世話人
たかぎ みきお
高木 幹夫氏

モデレーター

株式会社
中日新聞社 論説委員
いとお あゆみ
飯尾 歩氏

パネリスト

石井食品株式会社 前会長
いしい けんたろう
石井 健太郎氏

日本料理「一灯」店主
おさだ はやひさ
長田 勇久氏

管理栄養士
フードコーディネーター
パワーフードスタイリスト
やまもと まさえ
山本 理江氏

＜あいち伝統野菜の一例＞（画像提供：愛知県）



愛知縮緬（あいちちりめん）かぼちゃ



八事五寸（やごとごすん）にんじん



宮重（みやしげ）だいこん

当日のパネルディスカッションの様子の動画を東海農政局Webサイトに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



お問合せ先 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651

農業委員発信！地域で取り組む「遊休農地解消×有機農業」

事例
紹介

遊休農地の解消に取り組む大府市農業委員会は、農業委員の声掛けにより、市民と協力して遊休農地を再生し、化学肥料および農薬を使用しない農法で米作りを行いました。これからも米作りを継続していくとともに、環境にやさしい有機農業にも取り組んでいきます。

【経緯】



荒れていた遊休農地

市内の公民館に隣接する遊休農地は、雑草に覆われ荒れ放題となっていました。公民館という多くの市民が目にする場所という事もあり、地域の農業委員が「何とかしたい！」と声を上げ、地域住民と協力して草刈りを実施。

農業委員の一人が有機栽培に取り組む米農家だったため、有機栽培による米作りがスタートしました。

【取組内容】

遊休農地の再生は、崩壊した畦畔を修復し水田として機能させるのに大変苦労しました。

また、有機栽培は除草剤を使用できないため、数回実施した畦畔の草刈作業には人手が必要となり、多くの市民や農業委員などに協力いただきました。



畔の草刈りも頑張りました！



黄金色に輝く水田

お問合せ先 大府市農業委員会事務局 TEL 0562-45-6246



ついに迎えた収穫日、みんな笑顔でニコニコ（^^）

【成果】

農業委員の一声から始まった今回の取り組みは数々の苦労がありましたが、多くの市民の協力もあり収穫日を迎えました。約11aの田で収穫された約500kgの米は、市内の全公立保育園の給食へ提供されます。

また、この水田では米作りを今後も継続するとともに、他の遊休農地についても同様に取り組んでいきたいと考えています。

～取組参加者の声～

- ・立派な水田に再生できて嬉しい
- ・有機農業の大変さを実感した

FLOWER VALENTINE 2.14～花は自由なラブレター～

知っていますか？実は2月14日は、世界でいちばん花を贈る日。多くの国で、愛や感謝を伝えるために花を贈る習慣があります。

恋人、友達、家族、誰から誰に贈ってもいい。心を込めて贈った花は、心の中でずっと咲き続けます。あなたも、大切な人に、花で自由に気持ちを伝えてみませんか。

フラワーバレンタイン2024公式サイトでは、異業種コラボ企画、花選びのお役立ち情報、全国イベント情報、全国ショップリストなどを掲載しています。

◆ **フラワーバレンタイン2024公式Webサイト**
(花の国日本協議会Webサイト) <https://www.flower-valentine.com/>

東海地域では、フラワーバレンタインを盛り上げるさまざまなイベントが開催されます。

◆ **2024フラワーバレンタインのイベント情報（東海地域）**
<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/engei/hana/fv/240214.html>



お問合せ先 生産部 園芸特産課
TEL 052-223-4624

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<Webサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」メールマガジンの
Webサイト 登録はこちら